



No.97

# さいばいニュース

公益財団法人  
神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237  
神奈川県三浦市三崎町  
城ヶ島養老子  
☎046(882)6980  
FAX046(881)2233

## 今年も栽培漁業の転換点

昨年は、小田原海域においてヒラメが近年になく大漁でした。漁業者は、



小田原においては早くから、体長が三十五cm以下の漁獲物を再放流することが行われてきました。また、種苗放流も積極的に行い、資源培養に努めてきました。今後は、放流し成長し親となったヒラメを獲り残し

### 新年のご挨拶



公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会  
理事長 後藤 勇

新年あけましておめでとうございます。昨年中は、神奈川県栽培漁業協会の事業に対して皆さまのご理解と多大なご支援を頂き、御礼申し上げます。

栽培漁業協会も公益法

人として三年目となります。

公益とは「不特定多数の受益」を目指し、多数

の方々の協力とご支援のもと資源の培養を図っていくことが栽培漁業協会の役割と考えています。今年も相模湾と東京湾の水産生物の資源を培養するため、各種の種苗の放流事業と供給事業を展開していきます。水産関係団体や遊漁団体の要望に沿ってマダイ、クロダイ、カサゴ、マコガレイ、アワビ、トコブシの種苗を生産し、またヒラメ、カワハギ、トラフグ、ナマコなどを他の種苗生産機関から購入して、供給していきます。

神奈川県栽培漁業協会は全国で数少ない受益者負担によって資源の培養を行っている団体です。漁業者や遊漁船業者、遊漁者、消費者が放流の効果を実感して初めて受益者の負担が成り立ちます。また、漁業を取り巻く業体は、魚があつて流通が成り立ち、消費者に放流した魚が届くという点でこれら総ての人々が受益者と言えます。海に放流された種苗は無主物となり、放流主体者と直接の受益者が必ずしも一致しません。さらに、再生産に必要な親魚を残すことは、国として食料を確保する上で必要

なことです。したがって税金で種苗放流経費を賄う意味があると考えています。これらのことから太平洋南海域栽培漁業推進協議会の一員として広域的移動をする資源については、隣県との種苗共同放流事業を進めて参ります。神奈川県栽培漁業協会の経営は厳しい状況が続いていますが、有効な事業となるよう、皆さまのご協力のもと、資源の培養に努めてまいりますので引き続きご支援をよろしくお願いします。今年も皆さまのご健勝とご多幸、大漁を祈念して新年のご挨拶とします。

栽培漁業が始まってちょうど、二〇一三年で五十年となりました。公益財団法人全国豊かな海づくり推進協会は、これを記念して「栽培漁業のあゆみ50年」豊かな海へ、を編集し、昨年十一月にその発刊記念パーティを霞が関ビルで開き、同協会の岸安会長や林芳正農林水産大臣が挨拶、栽培漁業への期待を述べました。同誌には、栽培漁業の黎明期、発展期、定着期、転換期、そしてこれからの栽培漁業が記され、それ

それぞれの時期の社会的背景がまとめられています。今、全国的に種苗生産施設の老朽化と技術・技能職員の高齢化と退職に伴う生産体制の継続が課題となっています。同協会は、栽培漁業の推進は、都道府県を越えて移動する種類については、共同種苗生産・放流体制、セーフティーネットの構築などによって持続的な体制にすることを提起しています。これに対処するには国民的な理解と支持が必要で、今、栽培漁業に携わっている総ての人々が情熱を持って訴えていく必要性を感じています。

て次の世代の天然のヒラメを増やしていくことに期待が寄せられています。一方、三浦半島では数年前からアイゴとガンガゼの食害による磯焼けが心配されています。栽培漁業の畑が荒れてきています。種を蒔いて、それを小さいうちに獲らず、漁場の環境を守って初めて獲る漁業からつくる漁業が成り立つて行きます。アワビやサザエの餌となるカジメやアラメが磯焼けによってなくなっていくことは、漁業生産にとって重大な影響が心配されます。水産生物の小さな段階から大きくなるまでの環境が保全されてこそ、栽培漁業を展開する基盤が整います。磯焼けに対しては積極



磯焼けの原因ガンガゼ

恐れがあります。また、東京湾においては、夏から秋にかけての底層水の貧酸素が水産生物の成育にとって障害となつていきます。これは、昭和の高度経済成長期に東京湾の広大な干潟や藻場を埋め立てて工業用地を確保した結果や東京湾に流れ込む生活排水によって水質が富栄養化して赤潮が発生し、それが枯死し、海底に沈降し、腐るときに酸素を消費するからだと言われています。この解決は、単に海環境改善を図るだけでなく、山、川、人間活動全体を見直すことが必要です。海においてはやはり、浅場の回復が重要であり、水産の立場として、県民や国民に訴えていく必要があります。

アイゴとガンガゼの大量発生は地球温暖化による海水温の上昇が疑われています。干潟や藻場の埋め立てや地球の温暖化、ダムや河川整備による海への砂の供給不足など、これからも人間自身が水産生物の生きる環境を変化させてきて、その変化を如何に向かう努力をしていく必要に迫られているのではないのでしょうか。自然のサイクルを上手に利用してきた里山が手本になりますが、是非、人間が自然の恵みを最大限に利用させてもらう里海を栽培漁業という手段で実現していくことが、私たち世代の使命であるように思えます。

## 潮騒

栽培漁業が始まってちょうど、二〇一三年で五十年となりました。公益財団法人全国豊かな海づくり推進協会は、これを記念して「栽培漁業のあゆみ50年」豊かな海へ、を編集し、昨年十一月にその発刊記念パーティを霞が関ビルで開き、同協会の岸安会長や林芳正農林水産大臣が挨拶、栽培漁業への期待を述べました。同誌には、栽培漁業の黎明期、発展期、定着期、転換期、そしてこれからの栽培漁業が記され、それ

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

公益財団法人  
**全国豊かな海づくり推進協会**

会長 岸 宏

〒103-0001  
東京都中央区日本橋小伝馬町九十六  
小伝馬町松村ビル六階  
TEL 〇三三五六一三五〇一  
FAX 〇三三五六一三五〇二

**東京湾遊漁船業協同組合**

理事長 飯島 正宏

〒140-0002  
東京都品川区東品川一七一  
TEL 〇三三四七一七四〇一  
FAX 〇三三四五八八八三五

環境保全と水産業の振興を  
公益財団法人  
**相模湾水産振興事業団**

理事長 武井 正

〒250-0021  
小田原市早川一〇一  
TEL 〇四六五一二二五九九  
FAX 〇四六五一三二五五九四

**相模湾遊漁問題  
対話推進協議会**

会長 久保田源太郎

〒250-0021  
小田原市早川一〇一  
TEL 〇四六五一二二五九九  
FAX 〇四六五一三二五五九四

全国においしさを運びます  
**タムラ運輸サービス株式会社**

代表取締役 石川 義夫

本社  
〒239-0831  
横須賀市久里浜一〇〇〇一  
TEL 〇四六八三三二二〇〇  
FAX 〇四六八三三二二〇〇  
■本営業所  
〒238-0316  
横須賀市長井五二四七  
TEL 〇四六八五七四六六四  
FAX 〇四六八五七四六六九

平成25年度

事業の柱、マダイ種苗を県下十三地先に放流  
ヒラメ・クロダイ・マコガレイからナマコも

公益財団法人として、神奈川県栽培漁業協会は平成二十五年度に合計約四十万尾のマダイ種苗を県下十三地先に放流しました。これに加え、(公財)相模湾水産振興事業団が九地先に合計十萬尾、(一社)日本釣用品工業会が東京湾の三地先に合計二十万尾を放流しました。この結果二十五年度は七十万尾近いマダイ種苗が神奈川県下の海に放流されたことになりました。また、当協会はマダイのほかヒラメを九地先に合計七万尾、マコガレイを二地先に合計八万尾、クロダイを二地先



マダイ種苗を積み込み放流場所へ

放流事業・マダイ協力金分として八月二日に横浜市漁協金沢、横須賀市東部漁協、みうら漁協松輪地先に合計十四万一千尾、六日にみうら漁協小網代地先に合計二万六千尾を放流しました。また、九月五日には横須賀市・小田原湾、葉山町漁協、腰越漁協、江の島片瀬漁協、茅ヶ崎市漁協、平塚市漁協、小田原

市漁協、真鶴町漁協地先に合計十一万八千尾を放流しました。(公財)相模湾水産振興事業団がマダイ種苗を放流したのは九月五日で、葉山町漁協、腰越漁協、茅ヶ崎市漁協、平塚市漁協、大磯町漁協、小田原市漁協、真鶴町漁協、岩魚協、福浦漁協地先です。また、(一社)日本釣用品工業会が放流したのは横浜市金沢、横須賀市東部、みうら漁協松輪地先

マダイ

ヒラメ

今年度、六月二十六日から八月三日にかけて、少ない場所で五千尾、多い場所は一万五千尾となり、放流数は合計七万尾です。放流場所は相模湾の平塚、茅ヶ崎、葉山、小田

クロダイ

遊漁者が好んで釣りの対象にするこの魚は、十月三日に横浜市金沢沖に二千五百尾、十月六日に横須賀市長井町沖に五千尾を放流しました。

ナマコ

中華料理の食材として注目され、その種苗を十月八日、横須賀市の北下浦漁港内に放流しました。



高橋会長ご夫妻

高橋神奈川県漁連会長二重の喜び  
秋の叙勲で旭日小綬章  
水産功績者として受賞

神奈川県漁連の高橋征人会長は今年秋の叙勲で旭日小綬章を授与されました。また、大日本水産会の平成二十五年度水産功績者としても表彰されました。勲章の伝達式は昨年十一月十一日、農林水産省の講堂で行われ、功績者表彰式は同月二十八日に東京・港区の石垣記念ホールで行われました。高橋会長は、高校卒業後、小田原市江之浦で定置網、一本釣り漁業やワカメ養殖業に従事し、沿岸漁業経営を続けてきました。平成元年には江之浦漁協の理事、六年から

小田原市漁協の副組合長、十二年から組合長に就任しました。特に、小田原市漁協の自営の米神漁場の定置網では、モデル網の導入に積極的に取り組み、定置網の急激による被害の防止、漁獲の向上、若い漁業従事者の確保などで大きな役割を果たしました。平成十八年には神奈川県漁連の会長に選出され、神奈川県下の漁業振興に大きく貢献し、同年、神奈川県栽培漁業協会の理事にも就任し、水産資源の重要性を訴えるなど、栽培漁業の推進にも貢献してきました。



磯焼け対策  
研修会

(財)横須賀市西部水産振興事業団は昨年十月十八日、長井町漁協会議室でガンガゼやアイゴによる磯焼け対策研修会を開催しました。同事業団の太田議事長は「三浦半島などでも磯焼けが拡大しており、その対策が急務になっています」と挨拶しました。神奈川県水産技術センターの木下淳司普及員は三浦半島各地でガンガゼやアイゴによる磯焼けの被害状況を説明し、(独)水産総合研究センター増養殖研究所の黒木洋明沿岸資源グループ長はガンガゼは突発的に発生すること、同研究所の丹羽健太郎研究員は、ガンガゼは、水温が十五度C以上で餌を良く食べることを紹介しました。東京海洋大学の藤田大介准教授は、日本各地でガンガゼが増えている事例を説明、その有効な駆除は海の中で潰すことだと話し、アイゴによる被害は三浦半島も危険な状態に置かれており、干物にするなどして食べるべきだ、と提案しました。

ガンガゼ、アイゴ被害と対策を学ぶ  
第三十七回相模湾の環境保全と水産振興シンポジウムは昨年十月二十二日に開催されました。百五十人の漁業者や海洋環境・生物の研究者などが出席、「日本周辺海域の温暖化と相模湾の生物相の変動との関わり」をテーマに議論しました。東大大気海洋研究所の安田一郎氏が「日本周辺海域の温暖化の特徴」と題し、人類が放出した炭酸ガスが温暖化を進行させているなど、世界で議論されていることを紹介しました。引き続き、「日本周辺海域に起こっている海況と海洋生物の特異現象」「水温と海藻相の関係」「相模湾と駿河湾の海藻相の違い」「相模湾の海洋環境の今と昔の特徴」「相模湾・周辺海域における最近の魚類相の変化」「関東・東海海域における最近のブリ類資源の特徴」について話題提供、漁業現場からの意見を聞いたあと質疑応答を行いました。

相模湾の環境保全と水産振興シンポジウム

第三十七回相模湾の環境保全と水産振興シンポジウムは昨年十月二十二日に開催されました。百五十人の漁業者や海洋環境・生物の研究者などが出席、「日本周辺海域の温暖化と相模湾の生物相の変動との関わり」をテーマに議論しました。東大大気海洋研究所の安田一郎氏が「日本周辺海域の温暖化の特徴」と題し、人類が放出した炭酸ガスが温暖化を進行させているなど、世界で議論されていることを紹介しました。引き続き、「日本周辺海域に起こっている海況と海洋生物の特異現象」「水温と海藻相の関係」「相模湾と駿河湾の海藻相の違い」「相模湾の海洋環境の今と昔の特徴」「相模湾・周辺海域における最近の魚類相の変化」「関東・東海海域における最近のブリ類資源の特徴」について話題提供、漁業現場からの意見を聞いたあと質疑応答を行いました。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

財団法人  
**横須賀西部水産振興事業団**  
理事長 太田 謙  
〒240-0101  
神奈川県横須賀市長坂二丁目二番(横須賀市西浄化センター内)  
TEL 046-857-6596  
FAX 046-857-6596

財団法人  
**東京湾南部水産振興事業団**  
理事長 岩崎 一郎  
〒239-0831  
神奈川県横須賀市久里浜八丁目九番五  
TEL 046-834-3596  
FAX 046-834-3690

一般社団法人  
**神奈川県漁業無線協会**  
会長理事 栗山 義男  
〒238-0232  
三浦市晴海町一七  
TEL 046-882-2784

漁船漁業を守ります。  
**神奈川県漁船保険組合**  
組合長理事 青木 常雄  
〒236-0051  
横浜市金沢区富岡東二丁目二番一  
TEL 045-772-7301  
FAX 045-778-1392

JF 神奈川漁連  
**神奈川県漁業協同組合連合会**  
代表理事 高橋 征人  
〒236-0051  
横浜市金沢区富岡東二丁目二番一  
TEL 045-773-6777

平成二十五年度栽培普及啓発事業

協会は、公益財団法人として平成二十五年度も海で釣りを楽しむ一般の多くの人たちが期待するクロダイ、カサゴをはじめとし、メバルやマダイといった水産種苗を生産・放流し、神奈川の豊かな海づくりに努めました。

◇長井・カサゴ

(公財)日本釣振興会

神奈川支部は昨年六月、横須賀市長井町地先に当協会が生産したカサゴ種苗五千尾を放流しました。このうち千尾は、地域振興を目指して活動しているグループが行なった「荒崎海岸クリーンフェスタ2013春」に参加した親子連れ百五十人が、海岸を掃除した後、荒崎の海に放流しました。

◇横須賀・カサゴ

七月、全日本磯釣連盟

神奈川支部が主催して「青少年・少女釣り大会」が横須賀市海辺釣り公園で行われました。その大会に参加していた児童やその親たち五十人が、当協会が生産した二千尾のカサゴ種苗を放流しました。

◇久里浜・マダイ

七月、横須賀市東部漁

協会は、六月、東京湾地域遊漁協議会、横浜市漁協金沢支所が主催したイベントで、地元の小学生百八十人が漁船に乗り当協会が生産したカサゴ、メバル

種苗各千尾をシーパラダイス近くの海に放流しました。



クロダイ種苗を放流

協会が育てていた種苗です。

◇荒崎・クロダイ

十月、横須賀市

の「荒崎海岸クリーンフェスタ2013秋」に参加した親子連れ五十人が、当協会が生産した千尾のクロダイ種苗を放流しました。(公財)日本釣振興会神奈川支部が主催して実施したもので、これに先立ち、振興会と当協会は九千尾の種苗を長井沖に放流しました。

◇小田原・マダイ

八月、小田原みなとまつ

りが開催され、漁業や行政関係者、まつりに来ていた家族連れなど合計百人が漁船に乗り沖に出て、当協会が生産した三千九百尾のマダイ種苗を放流しました。

◇本牧・クロダイ

九月、横浜市本牧海釣

り施設でクロダイ種苗の放流イベントが行われました。釣りを楽しんでいた子どもたちなど五十人が参加して千尾の稚魚を放流しました。

◇腰越・マダイ

九月、腰越みなとまつ

りで、地元の小学生と父兄百五十人が参加し、漁船に乗り沖に出て六百尾のマダイ種苗を放流しました。また、岸壁に来ていた人たちが放流を行いました。このマダイ稚魚は、

さいばい漁業つて何 ⑮

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 専務理事 今井利為

その結果、平成二年ごろから漁獲物の九十パーセント以上が人工で構成されていることが分りました。このことからアワビの漁獲量が減少している理由の一つは、天然のアワビが激減していることとす。なぜこの様に天然のアワビが減少したか、原因は特定できません。今までの調査では、昭五十年代に使われ、現在では使用禁止となっている船底防汚剤を強く疑っています。

何でアワビ・サザエなどを漁業協同組合員以外の人々が獲っていけないの

日本沿岸海域の東京湾・大阪湾など重要港湾区域を除いてほとんどの海岸線に沿って共同漁業権と定置網漁業権、区画漁業権が設定されています。アワビ・サザエなどを磯根資源と呼んでいます。これらの資源を漁獲できる人は地元漁業協同組合員に限られます。これは、磯根資源は共同漁業権第一種種目として、漁業協同組合が管理しています。

江戸時代から「磯は地付き、沖は入会い」のルールがあります。

江戸時代から「磯は地付き、沖は入会い」のルールがあります。これら磯根資源は定着している、漁獲を管理しないとすぐになくなってしまうからです。ですから、いろいろな制限を設けて、獲りすぎを防いでいます。

◇横浜・マダイ

十月、横浜ベイサイド

マリナーは年間活動の一環として、横浜市内の小中学生たち三十八人に参加してもらい、マダイ種苗千尾を放流しました。なおこの日、同マリナーのフィッシングクラブの会員の皆さんから集めたお金を、栽培漁業に役立てて、と当協会に寄付してくれました。

現在、アワビの資源回復計画を実施していますが、その最大の目標は天然のアワビを増やすため、まずは、親貝の育成場をつくり、産卵量の増加を図ることを狙っています。

しかし、漁業者以外の人に無秩序な捕獲を認められた場合には、資源の乱獲が起ってしまうのは必然です。

このことから、一般の人が磯根資源を捕獲することは厳に謹んでください。

外国から輸入されているアワビ

国産のアワビはかつて四千トン以上を漁獲していましたが、近年、二千トンになり、半減しています。この減少を補うため、世界各地から輸入されています。輸入先はオーストラリア、ニュージーランド、南アフリカ共和国、メキシコ、アメリカ合衆国などです。また、中国が経済成長とともにアワビの需用が増大しています。

輸入されているアワビ

輸入されているアワビは、オーストラリアからビクトリアアワビ、グリーンリップ、南アフリカのミダノアワビ、アメリカ合衆国のカリフォルニア州で産するアカネアワビが知られています。その外、アワビの近縁種としてミミガイ科のロココ貝をチリから輸入しています。

結局、現在、アワビの種苗を放流しなければ、神奈川県では、アワビの漁獲ができない状況です。本来は、天然のアワビの再生産があって、そこへ人工種苗を補強することで、漁獲量を増大させることが必要です。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

YAMASHITA Maria 新しい釣りを提案する YAMARIA Corporation 代表取締役社長 佐藤 雅典 本社・横須賀工場 〒239-8688 神奈川県横須賀市神明町1-14 TEL 046-854-7733 FAX 046-838-4955 http://www.yamaria.co.jp

焼肉食堂 げんこつや ※葉山牛カルビ 945円 店主 石坂 幸央 〒240-0104 横須賀市芦名1-20-23 TEL 046-857-1529 ■定休日：毎週火曜、第三水曜

(有)瀬戸活魚センター 代表取締役社長 藤木 治夫 〒720-0203 広島県福山市田尻町四二八九番地 TEL 084-956-3473 FAX 084-956-3474

クロレラ工業株式会社 生産本部技術特販部 〒833-0656 福岡県筑後市久富一三四三 TEL 094-251-2611 FAX 094-251-7203

株式会社 鈴木組 代表取締役 脇山 俊 〒259-0201 足柄下郡真鶴町真鶴九九五二 TEL 046-516-8155



## 朝市・直販所めぐり

### 粗塩のみで茹で上げた湘南シラスを販売

# 平塚須賀・シラス漁専門 丸八丸

湘南平塚で六代続いていてシラス漁を専門に行っている漁業者、杉山武さんが目の前の相模湾で自分が獲った新鮮なシラスを自営の加工場に持ち込んで製造・販売しているのが「釜揚げシラス」「しらす干し」「たたみいわし」「ごまめ」「つくだし」などです。

このほか、獲れた日のうちは食べられる「生しらす」、季節限定の「しらす沖漬け」「干物」も加工場に隣接した直売所で買うことができます。また、地方発送も行っており、離れていても「湘南しらす」のおいしさが堪能できます。



丸八丸直売所

シラスはビタミンD、B12、DHAなどのミネラル成分が含まれ、特にカルシウムが豊富で、骨や内臓も丸ごとたべることができるといわれています。「丸八丸で製造しているシラス各種商品は保存料・香料などを一切使わず、粗塩だけで茹で上げてあるので安心して食べて下さい」とPRしています。

【アクセス】車だと相模川に架かる湘南大橋を渡り、左に折れてすぐです。徒歩だと、JR東海道線平塚駅南口より「須賀港」行きのバスで約10分、南町下車して10分です。

【住所】〒254-0803 平塚市千石河岸53-7

【TEL】0463-22-7260



釣り大会参加者から寄付

平成十三年からマダイ種苗放流に役立てて、と寄付を続けている釣具の大手メーカーシマノから、今年度も百万円の寄付をいただきました。また、リビエラリゾートシーボニアマリナが主催し

## 今年度もシマノから寄付

### リビエラリゾートの釣り大会参加者からも

平成十三年からマダイ種苗放流に役立てて、と寄付を続けている釣具の大手メーカーシマノから、今年度も百万円の寄付をいただきました。また、リビエラリゾートシーボニアマリナが主催し

たフィッシング大会「ハギマスター」の参加者から参加費の一部、十二万三千円を当協会に寄付してくれました。

シマノからの寄付は、協会が「マダイ遊漁者協力金制度」をスタートさせた平成十三年から始まり、そして今回までの十一回の寄付の総額は千五百九十万円に達しています。

神奈川県では行政の補助がなくなるなど、栽培漁業を取り巻く環境が厳



表彰された鈴木組

全工事を受注したことを契機に、地域への貢献事業として小学三年生三十七名を対象に三崎漁港の土木工事、三浦の漁業、栽培漁業についての学習、サザエ種苗二千個の放流などの体験学習を実施しました。このことが、建



式典で挨拶する飯島組合長。飯島正宏組合長は「国の発展のため身を削り続けている東京湾に恩返しする考えで邁進します」と挨拶しました。

二十五年度 建設ステーション元気アップコンテストで

## 鈴木組が最優秀賞受賞

真鶴町の鈴木組は、漁港建設工事を行っている三崎港に近接する三浦市立三崎小学校の生徒の課外学習でサザエ種苗の放流や漁港建設現場の見学などの社会貢献事業を行ったとして、平成二十五年度建設ステーション元気アップコンテストで最優秀賞を受賞しました。

鈴木組は、神奈川県を中心に漁港、港湾、マリナー、人工リーフなどの新設、整備など社会ニーズにこたえられるような環境作りの先駆者的役割を果たしてきた会社です。

神奈川県から三崎漁港・日ノ出二号岸壁の保全工事を受注したことを契機に、地域への貢献事業として小学三年生三十七名を対象に三崎漁港の土木工事、三浦の漁業、栽培漁業についての学習、サザエ種苗二千個の放流などの体験学習を実施しました。

## 東京湾遊漁船業協同組合 設立四十周年式典挙行

「海に生き、海を守る」の精神で東京湾で生活してきた遊漁船業者の集まり「東京湾遊漁船業協同組合」が設立四十周年を迎え、昨年十一月、記念式典を挙行了しました。

昭和四十九年に組合としてスタート、以後、適正な運行と営業に努め、東京湾の浅場にマッチするヒラメ、マダイなどの種苗放流にも取り組んできました。飯島正宏組合長は「国の発展のため身を削り続けている東京湾に恩返しする考えで邁進します」と挨拶しました。

同コンテストを実施しているのは県内の五十の建設業関連団体で組織している「神奈川県魅力ある建設事業推進協議会」で、「建設事業のイメージアップの推進」「働く人たちへの職場環境の改善」「若い人たちへの魅力づくりの推進」を目標に活動しています。

あけましておめでとうございます 公益財団法人神奈川県栽培漁業協会の事業の発展を祈念いたします

**Brine Shrimp EGGS-90**

株式会社 北村

〒604-0051 京都市中京区二条油小路町291

TEL 075-221-6695

売上の一部が放流事業に寄付される自販機設置にご協力ください。

サントリービバレッジサービス株式会社 湘南支店

TEL 0463-51-4572

FAX 0463-53-2975

有限会社 パル

代表取締役 菅野茂樹

〒238-0224 三浦市三崎町諸磯二二四九

TEL 0464-881007

FAX 050-3730810

神奈川県しらす船曳網漁業 連絡協議会

会長 杉山 武

〒254-0803 平塚市千石河岸二八一三

TEL 0463-211014

FAX 0463-211572